

国際交流センターだより vol.20

チェンマイ大学からの研究者 (2025年4月7日-6月20日)

本学の学術交流協定校であるタイ・チェンマイ大学の研究者が、法医学教室にて研修を行いました。法医学教室での受け入れは、一昨年、昨年に続き今回が3回目となります。これまで継続的にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、本学からチェンマイ大学への派遣も可能です。ご関心のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

チェンマイ大学 (Chiang Mai University) Dr. Kanicnan Intui, MD

I truly appreciated the opportunity to take part in the training at the Department of Legal Medicine, Nara Medical University from April to June 2025. The experience broadened my perspective and deepened my understanding of forensic practice through hands-on observation and academic exchange.

I am especially grateful to the faculty and staff for their warm support and guidance throughout my stay. Their kindness made this journey truly enriching and memorable.

Thank you again for this wonderful program and for giving me the opportunity to take part in such a rewarding academic and cultural exchange. I look forward to applying what I have learned in my work and sharing the insights gained with my colleagues in Thailand.



法医学教室の皆さんと



柏田教授と

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：卒業生のその後

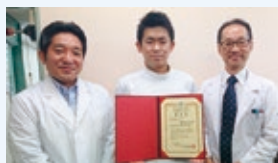
本学の卒業生で、海外リサクラ第1期生(平成28年度)でもある齊藤正一郎さん(東京都立多摩総合医療センター)の、卒業後のご活躍をご紹介します。齊藤さんは在学中から免疫学で研究に携わり、卒業後も継続して研究に取り組んでこられました。

齊藤 正一郎 (東京都立多摩総合医療センター呼吸器・腫瘍内科)

*論文タイトル: Angiopoietin-like 4 Is a Critical Regulator of Fibroblasts during Pulmonary Fibrosis Development
American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology.69:328-339, 2023.

*発行年月日: 2023年9月1日

*受賞歴: ・第62回日本呼吸器学会学術講演会 ポスター発表優秀賞
・European Respiratory Society 2024 ERS/JRS Young Investigator Award 2024



免疫学講座伊藤教授、呼吸器内科学講座室教授とともに



European Respiratory Society 2024にて

私は2017年1月から3月にかけて、リサーチ・クラークシップを通じて米国 Cedars-Sinai Medical Center で研究留学を経験し、帰国後もそのテーマを発展させて研究を継続しました。免疫学講座の伊藤教授をはじめ、講座の皆様や共同研究先の先生方のご指導のもと、第62回日本呼吸器学会学術講演会ポスター発表優秀賞を受賞、最終的に研究成果を論文化することができました。学生時代の学会発表や論文執筆を通じて国際的な視野と研究の魅力を実感しました。当時選んだ間質性肺疾患の研究は、呼吸器内科医となった現在も臨床研究として継続しており、その成果の一部は ERS/JRS Young Investigator Award 2024 の受賞という形で国際的に認められました。間質性肺疾患の病態解明と治療法の確立は、今後も生涯をかけて取り組むべき課題と考えており、この貴重な機会を与えてくれた本プログラムに心より感謝しています。好奇心を持ち、自ら機会をつかみにいく姿勢を、ぜひ後輩の皆さんにも大切にしてほしいと思います。

MESSAGE

医学部長 嶋 緑倫

齊藤正一郎先生は、現在、呼吸器内科専門医として活躍されながらも、学生時代に培われた研究マインドを高く維持し、臨床研究にも積極的に取り組んでおられます。その成果は、第62回日本呼吸器学会でのポスター発表優秀賞に留まらず、European Respiratory Society 2024における Young Investigator Award の受賞によって高く評価されており、先生の実績が国際的にも認められています。海外リサーチクラークシッププログラムの先輩として、今後の益々のご活躍を祈っております。



医学科長(免疫学・教授) 伊藤 利洋

齊藤先生は海外リサーチクラークシップにて医学研究の楽しさや奥深さに触れ、以降免疫学講座にて学生時代から研修医時代に至るまで肺線維症の研究に非常に熱心に取り組み、その成果は呼吸器内科の基礎研究では最も権威ある AJRCMB 誌に掲載されました。齊藤先生が本学卒業生として活躍する姿は非常に嬉しく、また頼もしく思います。今後の更なる活躍を心より期待するとともに、後輩たちにとっても大きな刺激となることを願っております。



生理学第二 教授 堀江 恭二

齊藤先生が学生時代に熱心に研究に取り組まれていたことは、よく存じておりました。それに加えて、私が担当していた生理学実習で、先入観にとらわれず率直な質問をされていたことが印象に残っています。そのような学問に対する真摯な姿勢が、学修や研究において一貫して発揮されていたのだと思いますし、その姿勢は在学生にとって良き手本となるはずです。齊藤先生のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



未来基礎医学 准教授 森 英一朗

齊藤先生は、学生時代は免疫学講座に通い、積極的に研究活動や発表に取り組んでいました。卒後の臨床でのトレーニングを通じて、色々なことに挑戦されています。海外リサクラで得た経験を、今後のキャリアの中でも存分に活かして欲しいと思います。



海外リサーチ・クラークシップ成果報告：帰国後報告会（3年生） & 研究成果報告会（4年生）（4月24日）

令和6年1月～3月に、2年次で海外8施設へ派遣された現4年生8名による研究成果報告会と、令和7年1月～3月に、同じく2年次で2施設へ派遣された現3年生2名による帰国後報告会を行いました。それぞれが海外で得た貴重な体験を、今後の研究や学びに活かしてくれることを期待しています。



最優秀賞 医学科4年 伊藤 晴加

発表演題：「ZnFはLCドメインのcross-βポリマーを認識し結合する」

所属研究室：未来基礎医学

海外留学先：Astbury Centre for Structural Molecular Biology, University of Leeds



本学に入学して以来、想像以上の研究活動に携わらせていただき、大変光栄に思っております。海外リサーチもその一つで、実習先では貴重な経験をさせていただきました。研究内容や研究姿勢に対する考え方について意見を交わすことも多く、手技の向上だけでなく考え方にも変化がありました。今後も海外の方との交流や研究活動を続けていきたいと思っております。海外リサーチに関わってくださいました全ての方々に感謝申し上げます。

優秀賞 医学科4年 佐久間 隼人

発表演題：「奈良県住民健診データに基づく食事速度と糖尿病の関連についての歴史的コホート研究」

所属研究室：疫学・予防医学

海外留学先：Department of Biochemistry & Cardiovascular Research Institute (CVRI), Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore



この度は優秀賞をいただきましたことをご指導いただいた教官の方々、リサーチクラークシップ実施に関わられた全ての方々に感謝申し上げます。未熟な学部生である私であっても、自らが興味を持ったテーマの研究活動に対してサポートをいただけるこの環境は、決して当たり前ではないと感じています。ここまでを振り返ると、研究活動の際は悔しいことが95%、嬉しいことが5%といった様子でしたが、それでも研究の喜びが消えることはありません。この喜びを胸にどこまでも研究を続けて参りたいと存じます。

最優秀賞 医学科4年 和出 陽南

発表演題：「転写因子FOXO1のマクロファージ活性化における役割」

所属研究室：免疫学

海外留学先：University of Michigan Medical School



このたび、研究成果報告会にて最優秀賞をいただきました。海外リサーチでは実験手法にとどまらず、思うように進まない研究への向き合い方も学ぶことができました。帰国後はその経験を踏まえて新たな視点と意欲で研究に励み、このたび成果を発表できましたことを嬉しく思います。ご指導賜りました免疫学講座の先生方ならびに貴重な機会を提供してくださった海外リサーチ関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後もこの経験を糧に精進してまいります。

優秀賞 医学科4年 平岡 崇秀

発表演題：「ADAMTS13免疫複合体ELISAの開発と臨床への影響について」

所属研究室：輸血部

海外留学先：KU Leuven Campus Kulak Kortrijk



この度は研究成果報告会にて優秀賞をいただき、大変光栄に思います。ベルギーでの研究活動では、異なる文化的背景を持つ人々と議論を重ねる中で、自分自身の人生観や研究への向き合い方を見つめ直す貴重な機会となりました。この経験を糧に、今後も国際的な視野を持って課題解決に貢献できる研究者を目指します。また、多くの方々を支えられて研究できていることへの感謝の気持ちを忘れず、常に謙虚な姿勢で研究に向き合っていきます。

発表学生一覧（氏名・所属研究室・発表演題・留学先）

大平雅也（未来基礎医学）	「Aloe EmodinはG ₂ /Mチェックポイントを阻害することで放射線増感する」 （ Burma Lab, University of Texas Health San Antonio / アメリカ）
小西菜々子（未来基礎医学）	「近接依存性標識法を用いた Danon 病関連因子 LAMP-2 の相互作用因子の研究」 （ Yokota Lab, Department of Medical Genetics, University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry / カナダ）
有野公人（消化器・総合外科学）	「脾臓摘出術における3種類の低侵襲手術の成績比較」 （ National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Surgery) / 台湾）
森田大智（薬理学）	「ラメラリンD投与によるインフラマソームへの影響」 （ National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Internal Medicine) / 台湾）

医学部長 嶋 緑倫

今回の報告会で特筆すべきは、全員が海外の経験を活かし、帰国後も研究マインドを維持しながら研究に取り組んでいた点です。発表内容はきわめてレベルが高く、すでに一人の研究者として研究を続けていることがわかり感心いたしました。なかなか優秀をつけるのが困難でしたが、最優秀賞の伊藤さんと和出さん、そして、優秀賞の佐久間君と平岡君は研究内容もですが、プレゼンも優れていました。皆様のご活躍を祈っています。

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

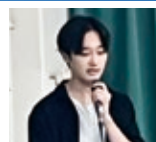
帰国したばかりの3年生と、帰国後の1年間も研究活動を継続してきた4年生による発表が行われ、学生による活発な質疑応答が行われました。今年度入学の1年生や、海外リサーチへの参加を希望する2年生が、報告会の様子を聞きにきていました。本プログラムを通じて本学学生が学部学生の時期から研究活動に触れ、研究に従事する経験を重ねること、医学の発展に貢献する文化が徐々に醸成されてきつつあることを実感しました。

帰国後の報告をしてくれた医学科3年生



原田 昌（生化学）

派遣先：Molecular Genetics of Ageing Max Planck Institute for Biology of Ageing/ ドイツ



島田 龍一（生化学）

派遣先：Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University(OIST)/ 沖縄